

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

新宮市立城南中学校
教諭 久安孝典

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、よみ事実や真理を明らかにすること」であり、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

まず、研究ではこれまで所属校で取り組んできた特別支援教育に関する実践を学校から一步離れた立場から見直し、自己の専門性をより向上させることができた。また、多岐に渡る文献を読むことで、新たな知見を得ることができた。

次に、これまで受講する機会がなかった様々な研修講座や初任者研修等の経年研修を通して、自身のこれまでの教員としてのキャリアをふり返ったり、曖昧だったことを明確にすることができた。例えば、5月の初任者研修の際、「発問」と「質問」の違いについて考える時間があった。教壇に立つ身として、すぐに考えをまとめられなかった自分の未熟さを痛感するとともに、常に学び続けることの重要性を再認識することができた。

様々な研修員研修も、研修員同士のつながりを深めるとともに教員としての資質向上につながったと考える。国語科や社会科、算数科等の模擬授業では校種の違いを越えて研修員それぞれが考えを率直に述べ合い、そのことから教材分析の観点に広がりが見られた。

また、アクティブラーニングに関するグループワーク等を通して、教育の今日的課題に対して主体的に学ぶ姿勢を身につけられた。未知のことに対して、文献や動画等の手段を用いて探究的に学び、他者に分かりやすいように端的な言葉にまとめる。それを、グループワークで共有し相互評価する。お互いの学びを共感することが、新たな学びへ発展していくという経験ができたことは、研修員としての修養につながったのではないかと考える。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研 究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等作成、模擬授業	・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析	・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書、資料の作成
修 養	所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」				
	■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング				
	■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講				
	■初任者研修、10年経験者研修聴講				
	■学びの丘指導主事等による研修員研修				

図 研修の概要